

星の銀貨

グリム兄弟 Bruder Grimm 楠山正雄訳

音檔参考 <https://aozoraroudoku.jp/voice/rdp/rd109.html>

むかし、むかし、小さい女の子がありました。この子には、おとうさんも
おかあさんありませんでした。たいへんびんぼうでしたから、しまいに
は、もう住むにもへやはないし、もうねるにも寝床がないようになって、と
うとうおしまいには、からだにつけたもののほかは、手にもったパンひとか
けきりで、それもなさけぶかい人がめぐんでくれたものでした。

でも、この子は、心のすなおな、信心のあつい子でありました。それで
も、こんなにして世の中からまるで見すてられてしまっているのです、この子
は、やさしい神さまのお力にだけすがって、ひとりぼっち、野原の上をある
いて行きました。すると、そこへ、びんぼうらしい男が出て来て、
「ねえ、なにかたべるものをおくれ。おなかがすいてたまらないよ。」と、い
いました。

女の子は、もっていたパンひとかけのこらず、その男にやってしまいまし
た。

そして、「どうぞ神さまのおめぐみのありますように。」と、いのってやって、またあるきだしました。すると、こんどは、こどもがひとり泣きながらやって来て、

「あたい、あたまがさむくて、こおりそうなの。なにかかぶるものちょうだい。」と、いいました。

そこで、女の子は、かぶっていたずきんをぬいで、子どもにやりました。

それから、女の子がまたすこし行くと、こんど出て来たこどもは、着物一枚着ずにふるえていました。そこで、じぶんの上着をぬいで着せてやりました。それからまたすこし行くと、こんど出てきたこどもは、スカートがほしいというので、女の子はそれもぬいで、やりました。

そのうち、女の子はある森にたどり着きました。もうくらくらになっていましたが、また、もうひとりこどもが出て来て、肌着をねだりました。あくまで心のすなおな女の子は、（もうまっくらになっているからだれにもみられやしないでしょう。いいわ、肌着もぬいであげることにしましょう。）と、おもって、とうとう肌着までぬいで、やってしまいました。

さて、それまでしてやって、それこそ、ないといって、きれいさっぱりなくなってしまったとき、たちまち、たかい空の上から、お星さまがばらばらおちて来ました。しかも、それがまったくの、ちかちかと白銀色をした、ターレル銀貨でありました。そのうえ、ついでしたが、肌着をぬいでやって

しまったばかりなのに、女の子は、いつのまにか新しい肌着をきていて、しかもそれは、この上なくしなやかな麻の肌着でありました。

女の子は、銀貨をひろいあつめて、それで一しょうゆたかにくらしめた。